

市のスポーツを取り巻く現状と課題【ICT を活用したスポーツ実施の取組と情報発信について】

アンケート調査や他都市事例からわかること

【ICT を活用したスポーツ実施の取組】

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、「**動画配信サービスを利用して**スポーツや運動を行うことが増えた」と回答した人全体の割合は1割強（12.4%）である。
- 性別×年代別にみると、**女性 20～50 歳代が2割を超えて**おり全体と比べて高い。
- 女性 20～50 歳代における週1日以上スポーツ実施率は、それぞれ全体よりも低かったにもかかわらず、「動画配信サービスを利用してスポーツや運動を行うことが増えた」と回答した人の割合は全体（12.4%）よりも高くなっている。このことから、**動画配信サービスが女性 20～50 歳代のスポーツ実施率の下げ止まりに一定程度寄与した**と考えられる。
- スポーツ庁では、アスリートからのメッセージや室内でできるトレーニング方法などについて、公益財団法人日本サッカー協会や公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会が公開している**オリジナル動画コンテンツを紹介**している。
- 東京都においても「おうちで運動」特集として、自宅でできるスポーツ動画（SPOPITA）や、東京都障害者スポーツ協会や東京マラソン財団などの関連団体が配信している動画を取りまとめて紹介しており、障害の有無や年齢にかかわらず、自宅で楽しむことができる取組を行っている。
- 頭にヘッドマウントディスプレイ、腕にアームセンサーを装着して楽しむ**ARスポーツ**（HADO）や、VR空間にスタジアムを構築し、その中で多くのファンが会場の雰囲気を楽しみながら試合観戦ができる**VR観戦**（バーチャルハマスタ等）など、ICT を活用した取組はスポーツ実施の場面に限らず進められている。
- 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局が主催の、東京2020大会へ参加する国・地域と日本の自治体が多様な分野で交流を行うホストタウンの取組を、バーチャル空間で紹介する「HOST TOWN HOUSE」が開設されている。個人で撮影した写真を投稿して相手国・選手を応援したり、相手国の料理や文化芸術を通じた交流や、「復興ありがとうホストタウン」「共生社会ホストタウン」などの取組を紹介したりと、**世界各国の人々とバーチャル空間で交流するプラットフォーム**となっている。
- 京都府は、障害者の身体を動かす機会やスポーツを通じた交流の場を設けるため、**障害者スポーツレクリエーション「オンライン運動会」**を開催している。京都府内に在住、在勤、在学している障害者はだれでも参加可能で、お手玉ポッチャ紙コップタワーなどの競技種目に挑戦している様子を撮影した動画を専用のホームページに投稿することで「参加」となる。一人ひとりがウィズコロナ社会においてスポーツを気軽に楽しむためのICT を活用したイベントとなっている。
- スポーツ庁の「スポーツ審議会総会（第27回）・スポーツ基本計画部会（第5回）合同会議」で示された資料では、デジタルの活用の重要性が指摘されており、前述の先進事例を鑑みると、今後も**eスポーツなども含めたICT を活用したスポーツ実施の取組への関心が高まる**ことが予想される。

【スポーツに関する情報発信】

- 市のスポーツや運動に関する情報の入手経路は「市報むさしの」が6割強（61.4%）と最も多く、次いで「市の施設等のチラシやパンフレット」（14.3%）、「市のホームページ」（13.8%）となっている。
- 一方、今後の希望入手経路は「市報むさしの」が6割強（61.7%）というのは変わらないが、次いで「市のホームページ」（28.1%）、「市の施設等のチラシやパンフレット」（19.3%）となっており、2番目と3番目の順位は入れ替わっている。
- 希望入手経路の割合と実際の入手経路の割合の差を全体で見ると、「市のホームページ」が最も大きく、次いで「SNS(ツイッター、フェイスブック)」となっており、**ICT を活用した情報発信が求められている**ことがわかる。

市のこれまでの取組・評価

- 「だんだん活力アップ体操」を広く普及させるため、市民（ローカルエリア）を対象を特化し、チャンネルと番組時間帯を固定して継続的に放映してきた。今後、**YouTube などによる動画配信**についても別途検討している。
- 市民のニーズの把握及び実施したイベント・事業の評価・見直しを図るために、**適宜アンケート調査やヒアリング調査**を実施してきており、今後も継続的に行う予定である。
- 市内で行われている健康づくり活動を紹介する活動情報誌を配布してきた。内容面では高い評価を得ていたものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、情報が不確定な状況下において年1回のみ紙媒体の配布は効果的でないと判断し、令和3年度版の発行は見直しを迫られた。今後は、紙媒体に加えて、**柔軟な発信が期待できるホームページ等**でも情報提供を行う。
- 武蔵野市体育協会や武蔵野生涯学習振興事業団などのスポーツ関連団体等のホームページの充実と更新を図り、市民に魅力あるスポーツ関連情報を提供してきた。今後も**ホームページやSNS等のICT を活用した情報発信**に力を入れていく。
- 市内のスポーツに関する情報について、だれにでも分かりやすいように、情報の内容と伝え方の**ユニバーサルデザイン化**を図ってきた。今後も当事者や専門家の意見を参考に、参加しやすい情報発信を図る。

次期計画に向けた現状と課題

①新たなスポーツの楽しみ方やスポーツ実施のためのICTの活用

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、動画配信サービスを利用してスポーツを実施することが増えた人は一定程度おり、特にスポーツ実施率の低い女性20～50歳代に多くみられた。市では既に動画配信を行っており、また、スポーツ庁や著名アスリート等も様々な動画を配信しているため、これらを組み合わせ市民のニーズに応じたコンテンツを提供していくことがスポーツ実施率を底上げするための一つの方法と言える。
- 技術革新により、VR・ARなどのICTを活用したスポーツの楽しみ方が多様化している。ICTの活用には、高齢者や障害者など移動が困難な方へのサービスの提供、遠隔地との交流、オンラインによる対戦、芸術文化との融合など様々な可能性がある。スポーツの新たな楽しみ方やスポーツ実施率の向上、障害者がスポーツに親しみやすい環境整備に向けて、ICTの活用方法を検討する必要がある。

②多様な媒体を活用した情報の集約・発信・拡散

- 市民にとって、市のスポーツ情報の入手経路は「市報むさしの」が多く、配布している冊子への評価も高いことから、紙媒体での情報発信の重要性がうかがえる。一方、ホームページやSNS等のICTを活用した情報の提供も求められている。情報の発信にあたっては、デジタル化に弱い層への配慮や、だれにでも分かりやすいユニバーサルデザインに留意しながら、ウェブ媒体と紙媒体とを組み合わせ情報発信が求められる。
- ライフスタイルの変化により、スポーツサービス産業も多種多様化している。市の体育施設の情報だけでなく、民間施設も含めたスポーツ関連の情報を集約・発信し、個々が生活・興味にあった情報を自由に入手できるような提供方法の研究が必要である。

市のスポーツを取り巻く現状と課題【体育施設の今後のあり方】

アンケート調査とヒアリング調査からわかること

【武蔵野総合体育館】

- 武蔵野総合体育館の設備等に対する満足度をみると、「開館時間の適切さ」(89.5%)が最も多く、次いで「1回の利用時間帯の適切さ」(87.6%)、「施設の清潔さ」「感染症対策の徹底」「職員・スタッフの対応の良さ」(同率 84.8%)となっている。
- 武蔵野総合体育館の設備等の満足度と重要度から、重要にもかかわらず満足していない項目を抽出すると、「**トイレの快適さ**」「**防犯上の安全さ**」「**施設情報のわかりやすさ**」となっており、優先的な課題であることがわかる。
- 武蔵野総合体育館の改修工事に期待することについて、成人等、関係団体、施設利用者の3つの対象で上位5項目を比べたところ、全ての対象で「**広くてきれいな更衣室・シャワー・パウダールーム・洋式トイレ等の設置**」が1位となっている。また、「感染症対策の徹底(非接触式の水栓、換気設備、ゆとりある空間の確保)」は全ての対象で3割を超えている。
- 「**カフェやラウンジの併設**」は、成人等と比べて関係団体及び施設利用者の割合が高く、武蔵野総合体育館に親しみのある人からより期待されているとうかがえる。
- 「性別」にみると、**女性**は男性よりも「**広くてきれいな更衣室・シャワー・パウダールーム・洋式トイレ等の設置**」と「**感染症対策の徹底**(非接触式の水栓、換気設備、ゆとりある空間の確保)」が10ポイント以上多くなっている。
- 「年代別」にみると、**30歳代以下**は「**トレーニングジムスペースの十分な確保**」や「**カフェやラウンジの併設**」が多い一方、**40歳代以上**は「**感染症対策の徹底**(非接触式の水栓、換気設備、ゆとりある空間の確保)」が多くなっており、年代により異なる傾向が認められた。
- ヒアリング調査では、「広い更衣室」「収容台数の多い駐車場」「キッズスペースの設置」「大会等の生配信やライブ中継ができる通信環境の充実とライブカメラの常設」「利用しやすい場所にある駐輪場」「明るい照明」「わかりやすい案内図」などを求めている声を確認できた。

【武蔵野温水プール】

- 武蔵野温水プールの設備等に対する満足度をみると、「利用料金の適切さ」(97.2%)が最も多く、次いで「1回の利用時間帯の適切さ」(92.9%)、「職員・スタッフの対応の良さ」(91.4%)、「開館時間の適切さ」(90.0%)、「感染症対策の徹底」(85.7%)となっている。
- 武蔵野温水プールの設備等の満足度と重要度から、重要にもかかわらず満足していない項目を抽出すると、「**トイレの快適さ**」「**更衣室・シャワー等の充実さ**」「**施設の清潔さ**」「**防犯上の安全さ**」「**施設情報のわかりやすさ**」となっており、優先的な課題であることがわかる。
- 武蔵野温水プール(屋内プール)や武蔵野プール(屋外プール)の改修工事に期待することについて、武蔵野総合体育館と同様に上位5項目を比べたところ、全ての対象で「**広くてきれいな更衣室・シャワー・パウダールーム・洋式トイレ等の設置**」が1位、「感染症対策の徹底(非接触式の水栓、換気設備、ゆとりある空間の確保)」が2位となっている。
- 「**ジャグジーの設置**」は、成人等と比べて関係団体と施設利用者の割合が高く、武蔵野温水プール(屋内プール)や武蔵野プール(屋外プール)に親しみのある人からより期待されているとうかがえる。
- 「性別」にみると、武蔵野総合体育館と同様に、**女性**は男性よりも「**広くてきれいな更衣室・シャワー・パウダールーム・洋式トイレ等の設置**」と「**感染症対策の徹底**(非接触式の水栓、換気設備、ゆとりある空間の確保)」が多くなっている。
- 「年代別」にみると、**30歳代**は「**現在屋外にある幼児プールの屋内化**」が多くなっており、子育て世代の特徴がうかがえる。
- ヒアリング調査では、「飛び込み専用レーンの設置」「遊泳コースの増設」などを求めている声を確認できた。

市のこれまでの取組・評価

- 総合体育館は、スポーツ祭東京2013(国民体育大会)へ向けたメインアリーナ空調設備等の整備、東京2020大会等前に**メイン・サブアリーナの特定天井(非構造部材)**の改修とそれに伴う1、2階**トイレの洋式化**を実施した。
- 陸上競技場はスタンド下の諸施設等を改修し、**チームロッカールームの新設、トイレの洋式化、更衣室の内装改修**を行った。その他、芝生の整備や第三種公認検定を受けるための工事を行っている。
- プールに関しては、**温水プール・管理棟の内装改修、空調機やろ過機等を更新**した。不具合が生じている屋外プールの井戸の更新には多額の経費がかかることから改修を見送っている。
- 軟式野球場は**外野フェンスの嵩上げ**を実施した。
- 庭球場、緑町スポーツ広場は随時補修をしている。
- 総合体育館、温水プール棟、プール管理棟はいずれも築30年以上が経過し老朽化が進んでいることから令和元年度に老朽化調査を行った。令和2年度には**市立体育施設類型別施設整備計画**を策定した。各施設ともに竣工後も着実に改修を重ねたことにより、国際的な親善試合や国際交流、トップアスリートとの触れ合いの創出に寄与している。

次期計画に向けた現状と課題

①更衣室・シャワー・トイレ等の整備が必要

- 利用時間の適切さや職員・スタッフの対応の良さ等におけるソフト面の満足度は高いものの、更衣室・シャワー・トイレ等のハード面の整備が求められている。「施設の清潔さ」に対する評価は、総合体育館は相対的に高いが、温水プールは低く、改善の必要性がうかがえる。

②防犯上の安全性と施設情報のわかりやすさを高める工夫が必要

- 防犯上の安全性と施設情報のわかりやすさを高めることが求められている。だれにとっても訪れやすく利用しやすくすること、特に、明るい照明やわかりやすい案内図の設置などが必要である。

③利用する対象を見据えた整備が必要

- 女性は男性よりも更衣室・シャワー等の改修や感染防止対策を期待している。また、ふだんから総合体育館に親しみのある人はカフェ・ラウンジの併設を、温水プール等に親しみのある人はジャグジーの設置を期待している。さらに、総合体育館と温水プール等ともに、年代により期待する設備項目に異なる傾向が認められている。
- このことから、利用する対象を見据えた施設整備が求められることがわかる。